



第5次豊田市生涯スポーツプランの策定について

1 プラン策定の目的

- スポーツは、心身の健全な発達、目標や夢の形成、健康増進、生きがいづくり、地域経済の活性化、地域の一体感の醸成、多様性の理解等、私たちの暮らしや人生を豊かにするもの
- 一方で、人口減少、少子高齢化、熱中症リスクの増大、デジタル化の進展等、スポーツを取り巻く環境は大きく変化
- こうした環境変化の中にあっても、本市スポーツ行政を計画的かつ効果的に推進していくため、その方向性や注力すべき施策等を整理したプランを策定することで、市民が生涯にわたりスポーツに親しめるまちづくりを目指す

2 プランの位置付け・期間

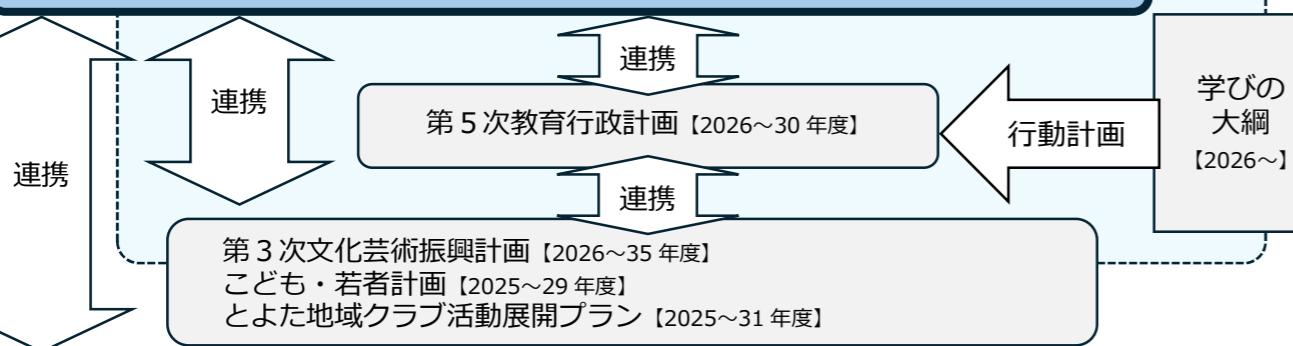
＜上位計画＞第9次豊田市総合計画
(ミライ実現戦略 2030) [2025～29年度]

第3期スポーツ基本計画 (スポーツ庁) [2022～26年度]
愛知県スポーツ推進計画 2023-2027

整合

参照

第5次生涯スポーツプラン【2026～30年度】



第5次障がい者ライフサポートプラン【2021～26年度】 健康づくり豊田21計画（第四次）【2024～29年度】
第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画【2024～26年度】 観光実践計画 2025-2029
公共建築物個別施設設計画【2025～34年度】

3 第4次プランの振り返り・今後の課題

＜子どもの「する」スポーツの推進＞

1日60分以上運動する小・中学生の割合は第4次プラン策定時と比べて減少。原因として、熱中症リスク増大や小学校の部活動の廃止等、スポーツを取り巻く環境の変化が考えられる。一方で、スポーツすることが好きな割合は微増傾向。

→スポーツが好きな子どもが今以上にスポーツに取り組めるよう、多様なスポーツ機会を提供するとともに、身近な場所で気軽にスポーツに取り組める環境を整備することが必要。

＜成人の「する」スポーツの推進＞

週1回以上スポーツを実施する成人の割合は第4次プラン策定時と比べてやや減少。働く世代・子育て世代は仕事・家事・育児等で運動時間が確保できること、高齢者は加齢に伴う体力・健康面の不安が障壁。

→各世代のニーズやスポーツを行うまでの障壁を踏まえた上で、ライフステージに応じたスポーツ機会を提供していくことが必要。

＜障がい者の「する」スポーツの推進＞

週1回以上スポーツを実施する割合は国の目標と比べ低い状況。一方で、運動やスポーツをしたいと思っている割合は高い傾向。

→関係団体との連携強化を図り、スポーツを行うまでの様々な障壁を踏まえた上で、誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーションの体験機会を拡充していくことが必要。

＜本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームとの連携＞

本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームと連携した体験講座や交流イベントを拡充して実施しており、わがまちアスリートやトップスポーツチームの認知度は第4次プラン策定時と比べて向上。

→本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームと連携した取組を一層拡充するとともに、市民の応援機運を醸成し、試合観戦につなげていく取組が必要。

＜豊田スタジアム・スカイホール豊田を生かした「みるスポーツの推進＞

豊田スタジアム・スカイホール豊田で開催された大会数・観客数は、第4次プラン策定時と比べて増加。今後は、アジア・アジアパラ競技大会が開催される一方で、市外スポーツ施設の開業により、豊田市で開催されるスポーツイベント・大会が減少する可能性有り。

→施設機能の向上や、市内のスポーツ資源の活用促進により、観戦機会の創出や市民の応援機運の醸成に繋げていくことが必要。

＜スポーツツーリズムの推進＞

大規模スポーツイベント開催時の市内消費額は、コロナ禍以降減少傾向。スポーツイベント・大会の減少に伴い、来訪者（観戦客、主催者、出場者等）も減少する可能性有り。

→規模を問わず「みる」スポーツ、「する」スポーツの誘致を進めるとともに、来訪者の消費行動を促進することが必要。

＜スポーツを「支える」人材の育成・スポーツ関係団体との連携強化＞

スポーツを「支える」活動をした市民の割合は第4次プランと比べて増加している一方で、人口減少や超高齢社会の進行によりスポーツを支える活動に携わる人材が今後減少するとともに、スポーツ関係団体が弱体化する可能性有り。

→部活動の地域展開や地域スポーツの推進に向け、スポーツ人材の発掘・育成を進めるとともに、スポーツ関係団体への支援や連携の強化を図ることが必要。

＜安全・安心なスポーツ施設の運営と利便性向上＞

熱中症リスクの増大やデジタル化の進展等の環境変化により、施設への空調導入や施設予約の利便性向上に関する市民ニーズが高い傾向。

→空調導入やシステム改修等により、快適で利便性の高いスポーツ環境の構築が必要。また、市民の選択肢を広げるため、民間スポーツ施設との連携を強化していくことが必要。

＜積極的なスポーツ情報の発信＞

スポーツに関する情報不足を感じる市民の割合は第4次プラン策定時と比べて増加。特に、施設の場所や施設の内容に関する情報不足を感じている割合が高い傾向。

→様々な媒体を使って、施設情報やイベント・教室情報等をわかりやすく発信していくことが必要。

第5次豊田市生涯スポーツプラン体系

目指す姿	誰もが生涯にわたり、スポーツに親しみ、スポーツで人と人とがつながるまち とよた	基本方針 「目指す姿」の実現に向けた 施策展開の方向性	1. スポーツを全ての市民にとって身近な存在にする 2. 豊富なスポーツ資源を生かし、まちの魅力創造につなげる 3. 多様な担い手と連携し、市民のスポーツの裾野を広げる 4. 安全・安心・快適にスポーツに取り組める環境を構築する
重点プロジェクト	子どもの可能性を広げる スポーツ環境の充実		●熱中症リスクの増大、少子化、コロナ禍、部活動の地域展開、デジタル化の進展等、子どものスポーツを取り巻く環境は大きく変化 ●こうした中、子どもがスポーツに興味を持ち、親しむことで、自らの可能性を広げていける環境づくりが必要 ●スポーツを通して子どもに提供したい内容を以下のとおり定め、関連施策を年齢に応じ、総合的に推進 <スポーツを通して子どもに提供したい内容> ①心身の健やかな成長 ②目標や夢の形成 ③地域への愛着の醸成
基本施策推進に 向けた考え方	基本施策	取組の方向性	新規・拡充取組例
スポーツを「する」 ライフステージや趣向に 応じたスポーツ機会の提 供を行うことで「する」 スポーツを推進	(1) こどもが楽しくスポーツに取り組める機 会の提供	子どものスポーツ体験機会の創出 こどもがスポーツに継続して取り組める環境整備	こども園での運動遊び教室、学校でのスポーツ体験講座 とよた地域クラブ活動
スポーツを「楽しむ」 本市ゆかりのアスリート やトップスポーツチー ム、施設等の本市スポ ツ資源を積極的に活用す ることで「楽しむ」スポ rtsを推進	(2) 成人が体力や趣向に応じてスポーツに取 り組める機会の提供	働く世代・子育て世代のスポーツ機会の創出 高齢者のスポーツ機会の創出	親子スポーツ教室、従業員向け出前教室 ユニバーサルスポーツ体験
	(3) 障がい者が気軽にスポーツに取り組める 機会の提供	障がい者のスポーツ体験機会の創出 障がい者がスポーツに継続して取り組める環境整備	ユニバーサルスポーツ体験、福祉サービス事業所との連携 指導員の育成、競技用補装具の購入支援
	(4) 本市ゆかりのアスリート・トップスポ ツチームとの交流の推進	本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームのPRの推進 本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームとのふれあいの創出	わがまちアスリートの認定、まちなか装飾 夢の教室、スポーツ体験講座
	(5) 本市スポーツ資源を生かした「みる」ス ポーツの推進	本市スポーツ施設を生かしたスポーツ観戦機会の創出 本市ゆかりのトップスポーツチームと連携したスポーツ観戦機会の提供	国内トップリーグの誘致 試合情報の発信・市民招待
	(6) 地域活性化に効果的なスポーツツーリズ ムの推進	「みる」スポーツのイベント、大会の誘致と大規模スポーツ施設の多様な利活用の促進 「する」スポーツのイベント（大会・合宿を含む）の誘致とイベントを契機とした消費喚起	大規模スポーツイベント・大会の誘致 スポーツイベントやトップスポーツチームと連携した市内周遊の促進
スポーツを「支える」 「人材・組織」、「施設」、 「仕組み」に関わる施策 を一體的に展開すること で「支える」スポーツを 推進	(7) スポーツ人材・組織の基盤の強化と連携 の推進	スポーツ人材の育成と活動機会の提供 スポーツ団体の支援強化と連携の推進	地域指導者人材バンク（とよた地域クラブ活動）、研修の充実 地域スポーツクラブの活動支援
	(8) 安全・安心・快適で利便性の高いスporte s環境の構築	安全・安心・快適なスポーツ施設の整備 スポーツ施設利用者の利便性の向上	地域体育館への空調導入、屋外照明LED化 スポーツ施設予約システムのリニューアル
	(9) スポーツ活動を支える仕組みづくりの推 進	スポーツ活動を推進する制度等の運用 スポーツ活動を支える持続可能な仕組みの構築	スポーツ施設・学校施設開放の制度の見直し とよた地域クラブ活動、地域スポーツクラブの活動地域拡大